

2019/1/17

柏の景気情報(2019年12月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報(2019年12月分)

○ 調査期間 : 2019年12月23日 ~ 2019年1月10日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	73	46.8%
建設	44	19	43.2%
製造	33	14	42.4%
卸・小売	44	24	54.5%
サービス	35	16	45.7%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【2019年12月の業況についての状況】

12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.0(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が0.7ポイント拡大した。

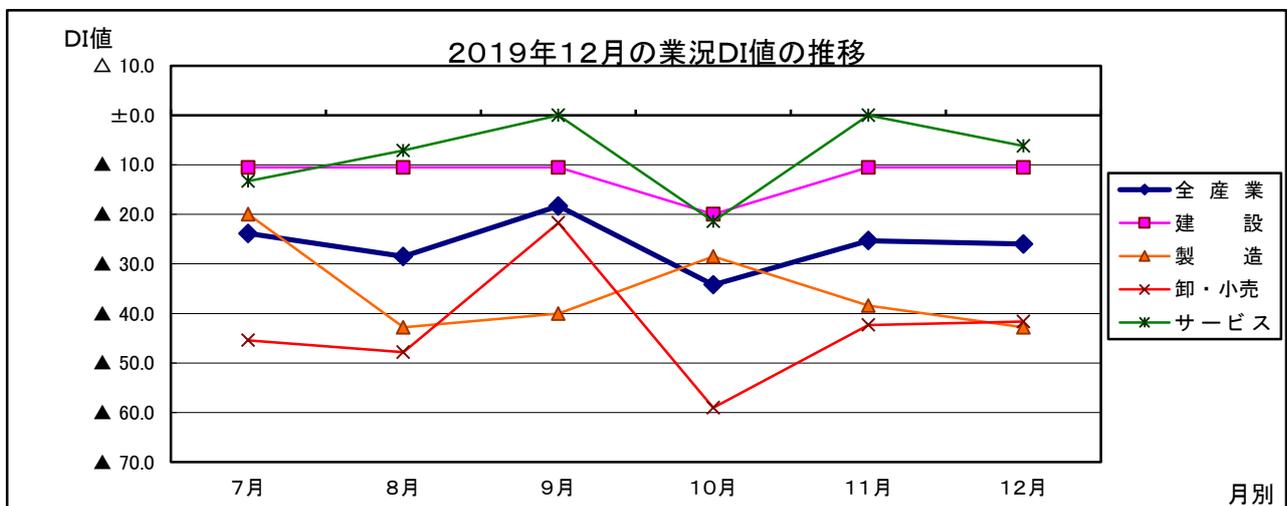
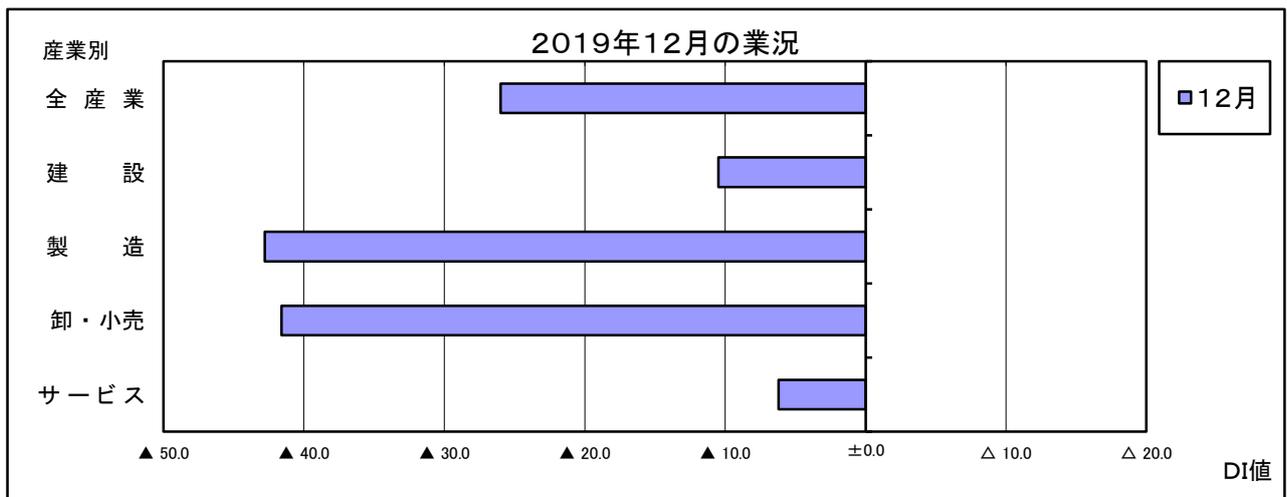
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲41.6(同▲42.3)である。変らない業種は、建設業▲10.5(同▲10.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同±0.0)、製造業▲42.8(同▲38.4)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.3(前月水準▲21.1)となり、マイナス幅が8.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△6.2(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲30.7)、卸小売業▲25.0(同▲34.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲21.0(同▲10.5)である。

2019年12月業況DI値(前年同月比)の推移

	2019年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲23.9	▲28.5	▲18.3	▲34.2	▲25.3	▲26.0	▲12.3(▲21.1)
建設	▲10.5	▲10.5	▲10.5	▲20.0	▲10.5	▲10.5	▲21.0(▲10.5)
製造	▲20.0	▲42.8	▲40.0	▲28.5	▲38.4	▲42.8	±0.0(▲30.7)
卸・小売	▲45.4	▲47.8	▲21.7	▲59.0	▲42.3	▲41.6	▲25.0(▲34.6)
サービス	▲13.3	▲7.1	±0.0	▲21.4	±0.0	▲6.2	△6.2(±0.0)



【2019年12月の売上についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.6(前月水準▲18.3)となり、マイナス幅が4.7ポイント縮小した。

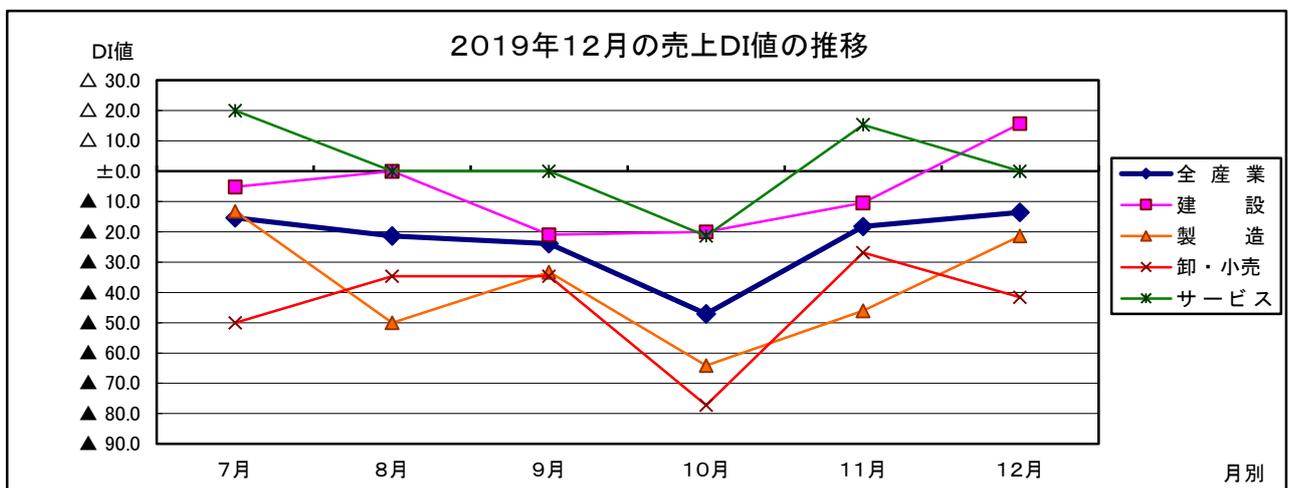
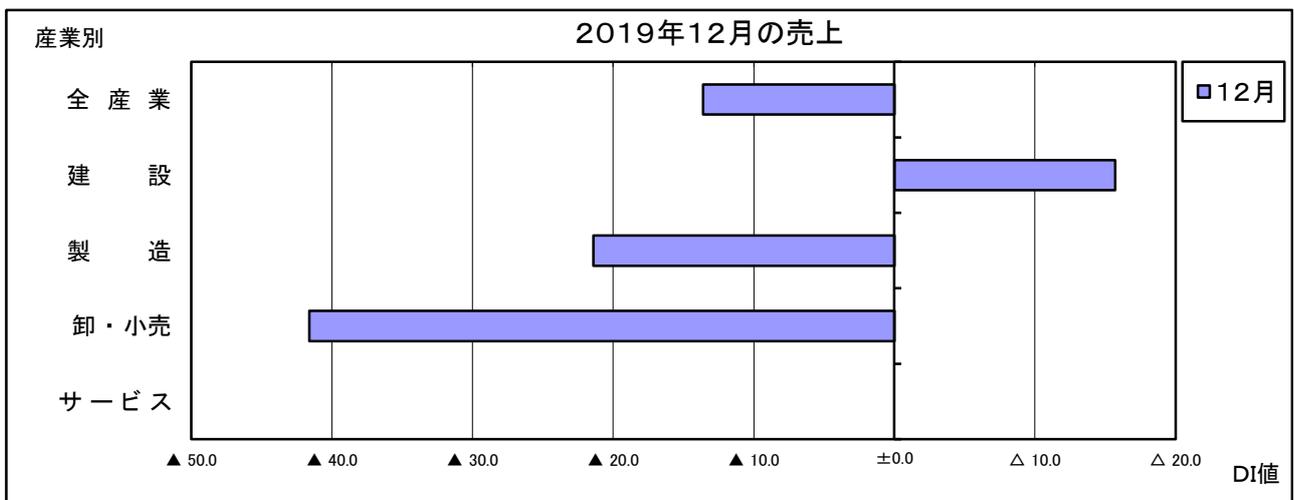
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△15.7(同▲10.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲21.4(同▲46.1)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△15.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲41.6(同▲26.9)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.3(前月水準▲14.0)となり、マイナス幅が1.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲14.2(同▲30.7)である。変らない見通しの業種は、建設業▲10.5(同▲10.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△12.5(同△15.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲29.1(同▲23.0)である。

2019年12月の売上DI値(前年同月比)の推移

	2019年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲15.4	▲21.4	▲23.9	▲47.1	▲18.3	▲13.6	▲12.3(▲14.0)
建設	▲5.2	±0.0	▲21.0	▲20.0	▲10.5	△15.7	▲10.5(▲10.5)
製造	▲13.3	▲50.0	▲33.3	▲64.2	▲46.1	▲21.4	▲14.2(▲30.7)
卸・小売	▲50.0	▲34.7	▲34.7	▲77.2	▲26.9	▲41.6	▲29.1(▲23.0)
サービス	△20.0	±0.0	±0.0	▲21.4	△15.3	±0.0	△12.5(△15.3)



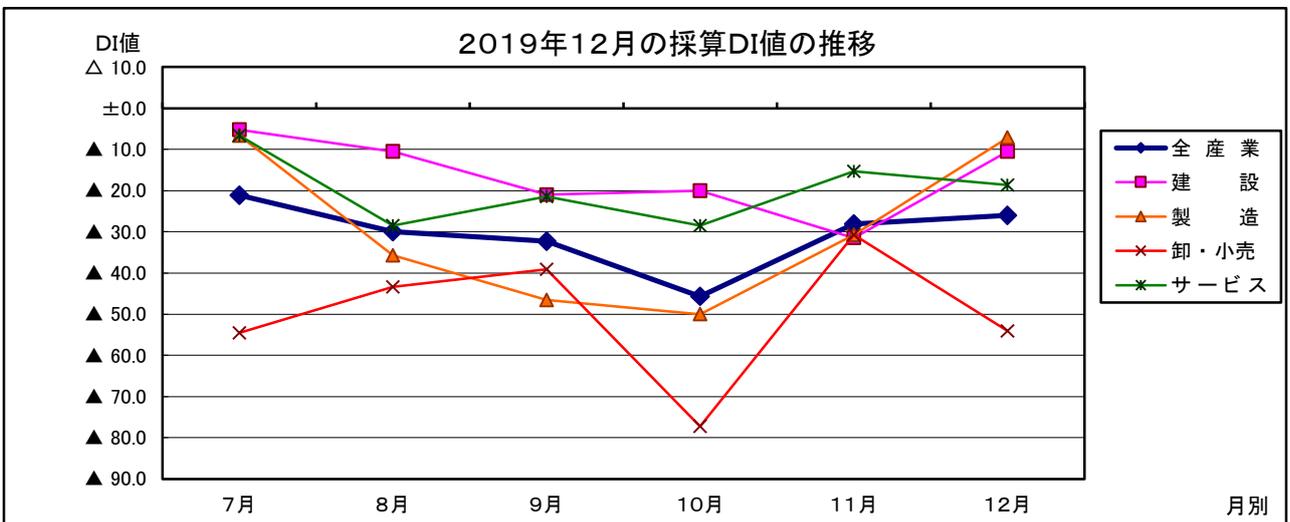
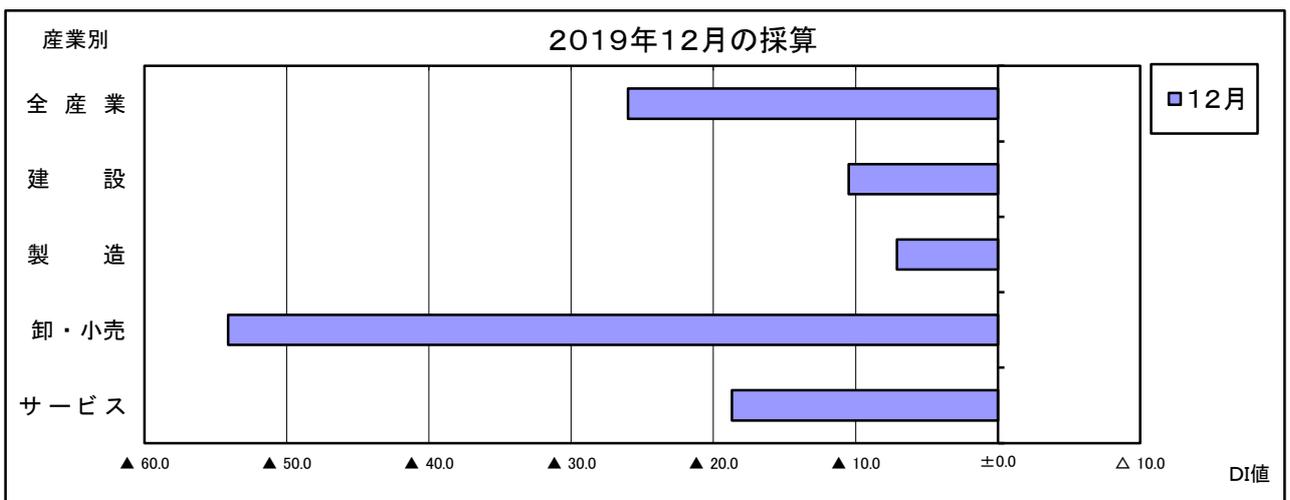
【2019年12月の採算についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.0(前月水準▲28.1)となり、マイナス幅が2.1ポイント縮小した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲7.1(同▲30.7)、建設業▲10.5(同▲31.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲54.1(同▲30.7)、サービス業▲18.7(同▲15.3)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.1(前月水準▲18.3)であり、マイナス幅が0.8ポイント拡大する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲7.1(同▲23.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△7.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲26.9)、建設業▲26.3(同▲21.0)である。

2019年12月の採算DI値(前年同月比)の推移

	2019年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲21.1	▲30.0	▲32.3	▲45.7	▲28.1	▲26.0	▲19.1(▲18.3)
建設	▲5.2	▲10.5	▲21.0	▲20.0	▲31.5	▲10.5	▲26.3(▲21.0)
製造	▲6.6	▲35.7	▲46.6	▲50.0	▲30.7	▲7.1	▲7.1(▲23.0)
卸・小売	▲54.5	▲43.4	▲39.1	▲77.2	▲30.7	▲54.1	▲33.3(▲26.9)
サービス	▲6.6	▲28.5	▲21.4	▲28.5	▲15.3	▲18.7	±0.0(△7.6)



【2019年12月の仕入単価についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.8(前月水準▲28.1)となり、マイナス幅が4.7ポイント拡大した。

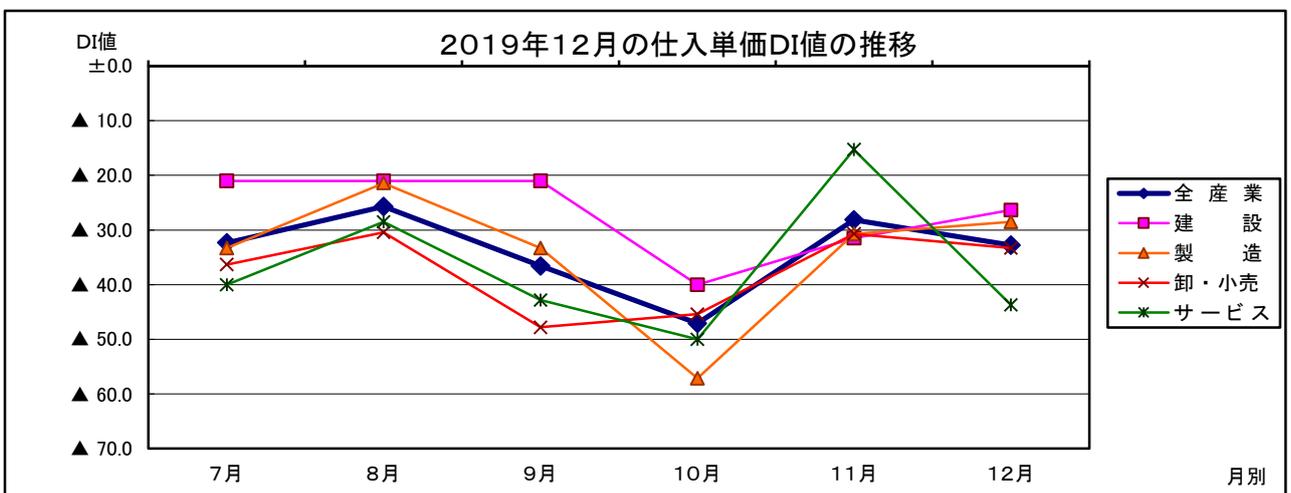
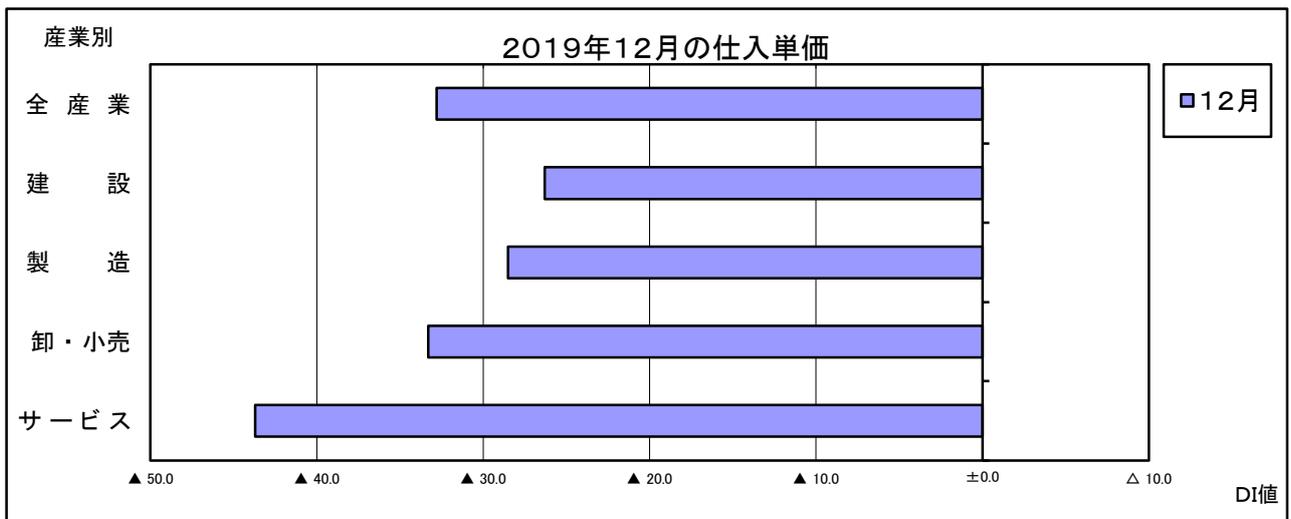
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲26.3(同▲31.5)、製造業▲28.5(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲43.7(同▲15.3)、卸小売業▲33.3(同▲30.7)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.3(前月水準▲23.9)となり、マイナス幅が3.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲7.1(同▲15.3)、卸小売業▲37.5(同▲38.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲31.5(同▲15.7)、サービス業▲25.0(同▲15.3)である。

2019年12月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	2019年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲32.3	▲25.7	▲36.6	▲47.1	▲28.1	▲32.8	▲27.3(▲23.9)
建設	▲21.0	▲21.0	▲21.0	▲40.0	▲31.5	▲26.3	▲31.5(▲15.7)
製造	▲33.3	▲21.4	▲33.3	▲57.1	▲30.7	▲28.5	▲7.1(▲15.3)
卸・小売	▲36.3	▲30.4	▲47.8	▲45.4	▲30.7	▲33.3	▲37.5(▲38.4)
サービス	▲40.0	▲28.5	▲42.8	▲50.0	▲15.3	▲43.7	▲25.0(▲15.3)



【2019年12月の従業員についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△24. 6(前月水準△19. 7)となり、プラス幅が4. 9ポイント拡大した。

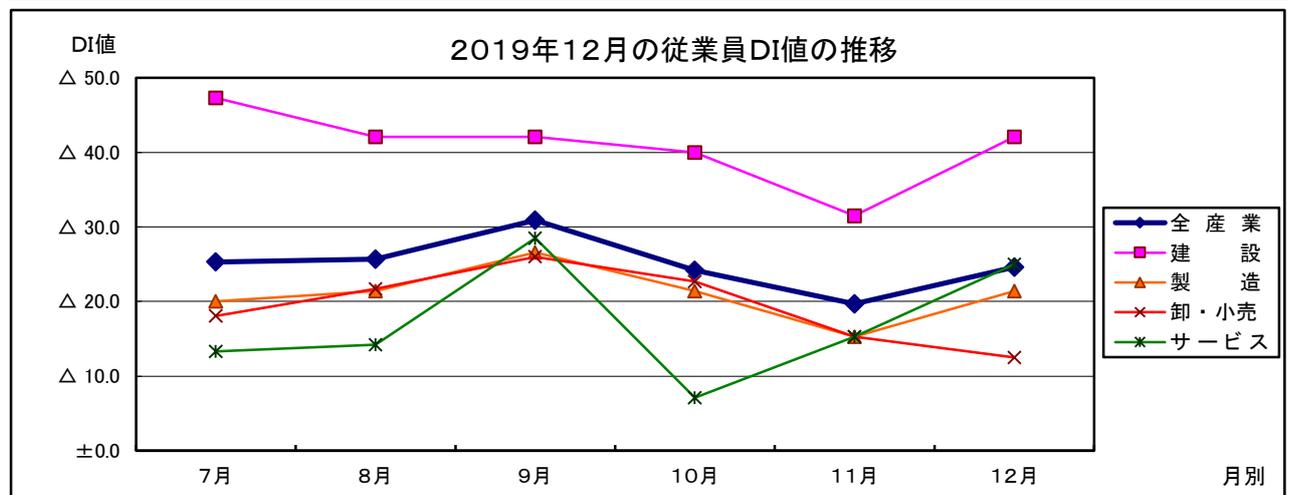
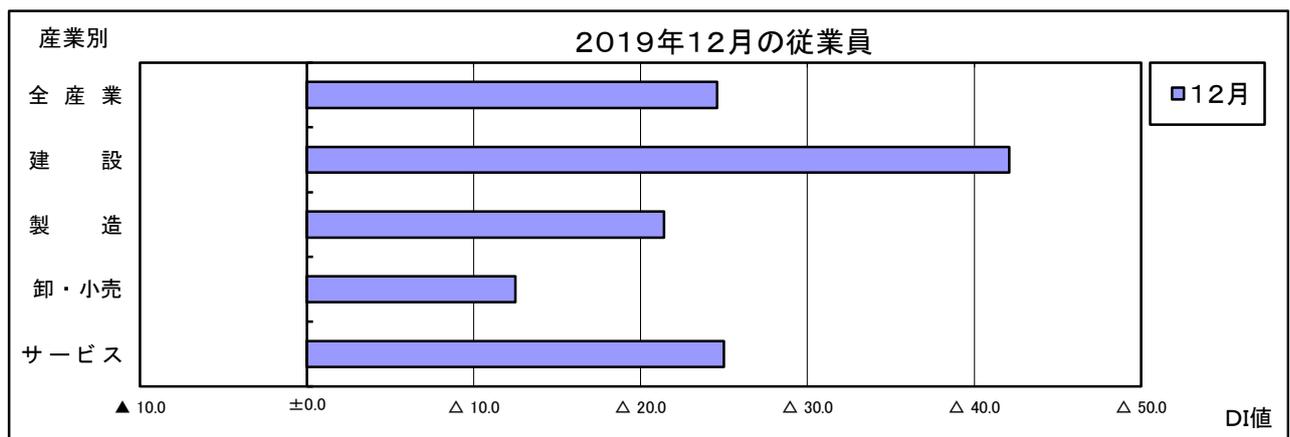
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△42. 1(同△31. 5)、サービス業△25. 0(同△15. 3)、製造業△21. 4(同△15. 3)である。プラス幅が縮小した業種は、卸小売業△12. 5(同△15. 3)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、△28. 7(前月水準△23. 9)となり、プラス幅が4. 8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△25. 0(同△15. 3)、建設業△42. 1(同△36. 8)、サービス業△18. 7(同△15. 3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△28. 5(同△30. 7)である。

2019年12月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	2019年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	△ 25.3	△ 25.7	△ 30.9	△ 24.2	△ 19.7	△ 24.6	△ 28.7 (△ 23.9)
建設	△ 47.3	△ 42.1	△ 42.1	△ 40.0	△ 31.5	△ 42.1	△ 42.1 (△ 36.8)
製造	△ 20.0	△ 21.4	△ 26.6	△ 21.4	△ 15.3	△ 21.4	△ 28.5 (△ 30.7)
卸・小売	△ 18.1	△ 21.7	△ 26.0	△ 22.7	△ 15.3	△ 12.5	△ 25.0 (△ 15.3)
サービス	△ 13.3	△ 14.2	△ 28.5	△ 7.1	△ 15.3	△ 25.0	△ 18.7 (△ 15.3)



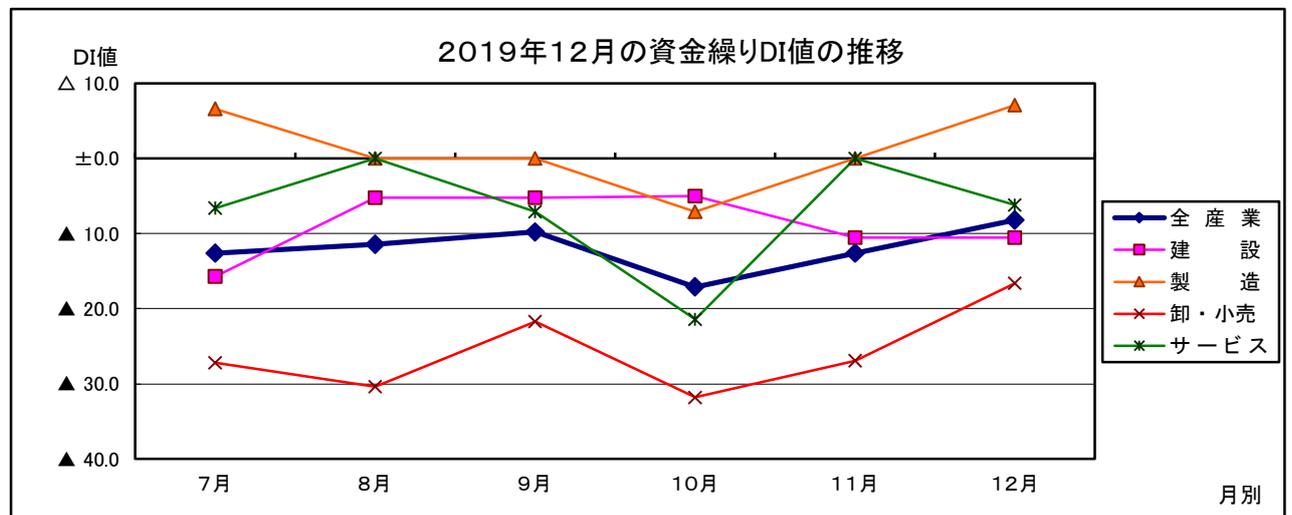
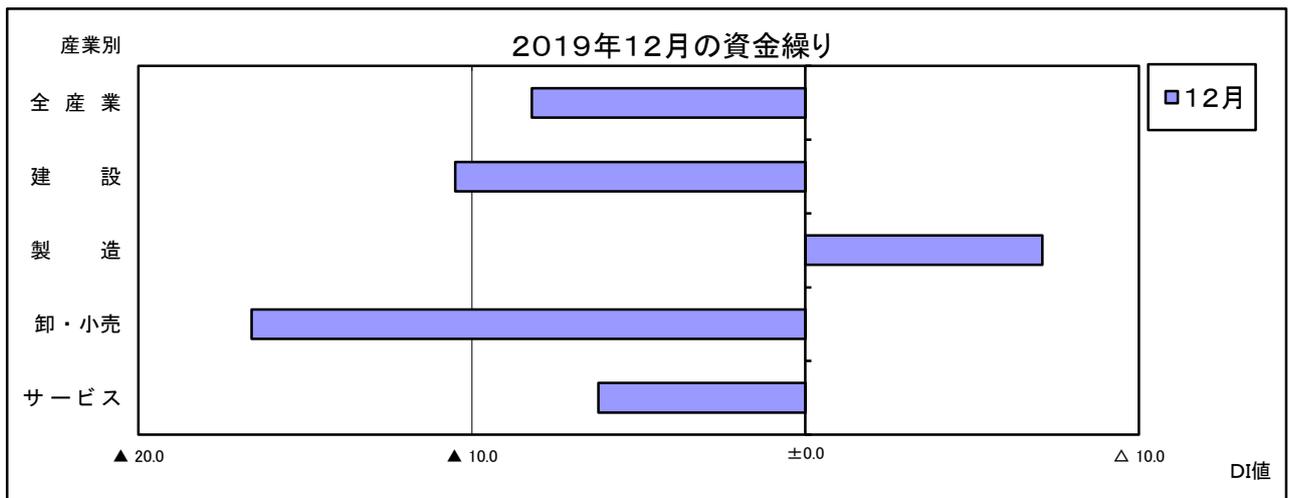
【2019年12月の資金繰りについての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.2(前月水準▲12.6)となり、マイナス幅が4.4ポイント縮小した。
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造△7.1(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲16.6(同▲26.9)である。変らない業種は、建設業▲10.5(同▲10.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲6.2(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.2(前月水準▲8.4)となり、マイナス幅が0.2ポイント縮小する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲15.3)、卸小売業▲12.5(同▲19.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△7.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲15.7(同±0.0)である。

2019年12月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	2019年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲12.6	▲11.4	▲9.8	▲17.1	▲12.6	▲8.2	▲8.2(▲8.4)
建設	▲15.7	▲5.2	▲5.2	▲5.0	▲10.5	▲10.5	▲15.7(±0.0)
製造	△6.6	±0.0	±0.0	▲7.1	±0.0	△7.1	±0.0(▲15.3)
卸・小売	▲27.2	▲30.4	▲21.7	▲31.8	▲26.9	▲16.6	▲12.5(▲19.2)
サービス	▲6.6	±0.0	▲7.1	▲21.4	±0.0	▲6.2	±0.0(△7.6)



【2019年12月の調査結果のポイント】

《全産業DIはわずかながら悪化。先行きは改善を見込むが慎重な見方が続く》

12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.0(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が0.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲41.6(同▲42.3)である。変わらない業種は、建設業▲10.5(同▲10.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同±0.0)、製造業▲42.8(同▲38.4)である。

【建設業】からは、「諸物価の値上がりで採算、利益減少。消費増税の影響も多大だ」(電気工事業)、「毎年年末は新しい畳で新年を迎えたいお客様からの受注がある。ありがたい年の瀬だ」(畳工事請負・畳製造販売業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「米・中、EU、自然災害等リスクの増大による不透明感が投資抑制に繋がり低迷。短中期見通しが重要」(金属素形材製品製造業)、「設備老朽化により投資意欲はあるが、市場動向の判断が難しく、新設、改修するか迷う」(特殊産業用機械)、「消費増税の影響はほぼ無いが、台風や大雨で需要のズレが。今後の売上挽回に期待するも、インバウンドの減少や少子高齢化、人口減少が少しずつ売上に影響」(自動車付属品製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「暖冬で高額商品のコート売上が半減。また、大型ショッピングモール(テラスモール)ができて買い回り品の来店客が減り二重苦」(婦人・子供服小売業)、「消費増税により景気が悪い」(食料・飲料卸売業)、「消費増税の反動は11月以降、徐々に縮小。前回の増税時程の深刻な落ち込み、長期化はないと想定。衣料品等が前年実績を下回る中、食料品は店頭を改装した効果あり前年超え」(百貨店)、「年賀状印刷数は今期も減少。特に高齢者がやめている」(書籍・文房具小売業)、「衣料品を中心に不調。フードストリート開設により昨年は好調だった為、反動によるマイナスかも」(各種商品小売業)、「歳末催事の期間は良いが、前後は落ちた」(各種商品小売業)、「23日、クリスマスが平日となり動向が悪かった。お歳暮は好調」(大型小売店)、「クリスマスデコレーションケーキの売上が減り、小物、その他ケーキの売上は増加。単価が低い分全体の売上減！」(洋菓子店)、「クリスマスは客単価が減少するも客数が増加し、売上は伸びた」(洋菓子店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「ここ10年間で最高の売上を記録。冷夏、長雨、大風、消費増税の反動がいつぺんきたのだろうか」(酒場・ビヤホール)、「忘年会は大人数の予約が減り、少人数で増加」(日本料理)、「ここ1年ほど平日夜の来店客数が減少」(食堂・レストラン)、「貨物自動車運送事業法改正の効果に期待」(一般貨物自動車運送業)、「年内に売却希望のお客様が来店。また、同業者からの買い取り依頼も。売却、購入の問合せは安定してあるが、購入までの期間は長め」(不動産管理業)、「築浅駅近の高額賃貸物件より駅徒歩10分程度の手頃な物件の成約率が高い。消費者の財布の紐は昨年より固い印象」(不動産賃貸・管理業)、「会議所がリーダーシップをとり街の賑わいと豊かさを感じられるようになれば」(不動産賃貸業)、「市内経営者によれば、利益の無い繁忙によるフル操業だと異口同音。消費増税が重荷で、難しい年の再来か」(投資顧問)などのコメントが寄せられた。

◎労働環境・人手不足

「昨今は忘年会を社員に強要できなくなってきた。建築業界においても最近の職人不足はかなり深刻。「最近の若い者は」と言うのではなく、働く環境を整えることが大切になってきている」(一般土木建築工事業)、「明確な目的と目標、人材の確保と育成が必須」(金属素形材製品製造業)、「年内で雇用確保できたが、適正人数ではない」(特殊産業用機械)、「今まで、外国人雇用や実習生の問合せは就職斡旋企業からが多かったが、ハローワークからもくるように」(一般産業用機械・装置製造業)、「慢性人手不足で、種まきして熟した案件を掴めず」(ソフトウェア業)、「2019年は出生率が90万人を割り、労働人不足はAI時代の片鱗を窺わせる。外国人に頼る中小企業も、早く手を打たないと厳しい時代が到来か」(投資顧問)との声が寄せられた。

◎先行き不安

「オリンピックまでは変化なし。その後はどうか」(職別工事業)、「経済状況は冷え込みが厳しい。最近はどうしたら継続できるか考えてしまう」(印刷業)、「オリンピック後の落ち込みの話が気になる」(各種商品小売業)、「来年の景気動向はいかに。都心はしばらく好景気と言われるも、地方はすでに冷め始めている」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲23.9	▲10.5	▲20.0	▲45.4	▲13.3
8月	▲28.5	▲10.5	▲42.8	▲47.8	▲7.1
9月	▲18.3	▲10.5	▲40.0	▲21.7	±0.0
10月	▲34.2	▲20.0	▲28.5	▲59.0	▲21.4
11月	▲25.3	▲10.5	▲38.4	▲42.3	±0.0
12月	▲26.0	▲10.5	▲42.8	▲41.6	▲6.2
見通し	▲12.3	▲21.0	±0.0	▲25.0	△6.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 13.6	▲ 12.3	▲ 26.0	▲ 19.1	▲ 32.8	▲ 27.3	△ 24.6	△ 28.7
建設	△ 15.7	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 26.3	▲ 26.3	▲ 31.5	△ 42.1	△ 42.1
製造	▲ 21.4	▲ 14.2	▲ 7.1	▲ 7.1	▲ 28.5	▲ 7.1	△ 21.4	△ 28.5
卸・小売	▲ 41.6	▲ 29.1	▲ 54.1	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 37.5	△ 12.5	△ 25.0
サービス	±0.0	△ 12.5	▲ 18.7	±0.0	▲ 43.7	▲ 25.0	△ 25.0	△ 18.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 26.0	▲ 12.3	▲ 8.2	▲ 8.2
建設	▲ 10.5	▲ 21.0	▲ 10.5	▲ 15.7
製造	▲ 42.8	±0.0	△ 7.1	±0.0
卸・小売	▲ 41.6	▲ 25.0	▲ 16.6	▲ 12.5
サービス	▲ 6.2	△ 6.2	▲ 6.2	±0.0

2019年12月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.0に対し、「CCI-LOBO」が▲29.4で柏の方がマイナス幅が3.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.6に対し、「CCI-LOBO」が▲21.7で柏の方がマイナス幅が8.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、建設業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.0に対し、「CCI-LOBO」が▲23.3で柏の方がマイナス幅が2.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.8に対し、「CCI-LOBO」が▲36.2で柏の方がマイナス幅が3.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△24.6に対し、「CCI-LOBO」が△23.1で柏の方がプラス幅が1.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.2に対し、「CCI-LOBO」が▲13.6で柏の方がマイナス幅が5.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。

【2019年12月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設業	景気停滞。諸物価の値上がりで採算、利益減少になった。消費増税の影響も多大だ。	景気低迷 利益減少 消費増税の影響	電気工事業
	毎年年末は量を新しくして新年を迎えたいというお客様からの受注があり、ありがたい年の瀬である。	受注増加	量工事請負・量製造販売業
	オリンピックまでは変化なし。その後はどうか。	先行き不透明	その他の職別工事業
	昨今は忘年会を社員に強要できなくなってきている。建築業界においても最近の職人不足はかなり深刻。「最近の若い者は」と言うのではなく、働く環境を整えることが大切になってきており、こういった変化にリーダーが気付いて対応する事が求められる。	職人不足 働く環境の整備	一般土木建築工事業
製造業	米・中、EU、自然災害等リスクの増大による不透明感が投資抑制に繋がり、低迷が続いている。短期、中期見通しが重要。明確な目的と目標、人材の確保と育成が必須。	景気低迷 人材確保、育成	金属素形材製品製造業
	年内で雇用確保できたが適正人数ではない。設備老朽化による投資意欲はあるが、市場動向の判断が難しく、新設、改修を行うか迷っている。	人材確保 市場不透明	特殊産業用機械
	経済状況は冷え込みがますます厳しくなっている。この何年間、どうしたら継続できるのかを考えてしまう。	先行き不透明	印刷業
	今まで、外国人雇用や実習生の問い合わせは就職斡旋企業によるものが多かったが、ハローワークからもくるようになった。	外国人雇用	一般産業用機械・装置製造業
卸小売業	業界として消費増税の影響はあまりなかったが、台風や大雨の影響で需要のズレが生じている。この先の売上の挽回に期待しているが、韓国、中国からのインバウンドの減少や少子高齢化、人口減少が少しずつ売上に影響してきている。業界内における生き残りをかけた競争が今後激しくなると予想される。	天候の影響 インバウンド 人口減少の影響 売上減少	自動車付属品製造業
	暖冬により高額商品であるコートの売上が半減した。また、大型ショッピングモールができた事で買い回り品の来店客が減ったことで二重苦であった。	天候の影響 大型店開店の影響 売上減少	婦人・子供服小売業
	今年から23日が祝日ではなくなり、平日のクリスマスだった事から動向が悪かった。パーティーを開くというより、家族でいつもの夕食を食ベケーキをプラスするくらいのイメージか。お歳暮は好調。	クリスマス商戦不調 歳暮商戦好調	大型小売店
	1~4月までが学校販売のピーク。アルバイトも4月上旬まで雇用。	先行き売上増加見込み	書籍・文房具小売業
	消費増税により10月は反動が大きかったものの、11月以降徐々に影響幅が縮小。前回の増税時のような深刻な落ち込みやその長期化はないと想定している。衣料品等、その他商品が前年実績を下回る中、特に食料品は店頭の改装を行なった効果もあり、前年実績を超えている。	消費増税の影響 食料品売上増加	百貨店
	年賀状印刷数は今期も減少した。特に高齢者がやめているようだ。	年賀状	書籍・文房具小売業
	衣料品を中心に不調だった。フードストリートを開設した事で昨年は好調だった為、反動によるマイナスもあると思う。	衣料品不調	各種商品小売業
	歳末催事の期間は良かったが、前後は落ちた。オリンピック後の落ち込みの話が気になる。	歳末催事売上増加 先行き不透明	各種商品小売業
	クリスマスデコレーションケーキの売上が減り、小物、その他ケーキの売上は増加。単価が低い分全体の売上減！	売上減少	洋菓子店
	消費税が10%になり景気が悪くなっている。	消費増税の影響	食料・飲料卸売業
クリスマスは客単価は減少するも客数が増加し売上は伸びた。	売上増加	洋菓子店	
サービス業	12月はここ10年間で最も最高の売上だった。冷夏、長雨、大風、消費税等、12月でいっぺんに反動がきたのだろうか。	売上増加	酒場・ビヤホール
	忘年会は大人数の予約が減るも、少人数では増加。	忘年会予約動向	日本料理
	ここ1年ほど平日夜の来店客数が減少している。	顧客減少	食堂・レストラン
	貨物自動車運送事業法改正の効果に期待。	法改正の効果	一般貨物自動車運送業
	年末は年内中に売却希望のお客様が何人かいた。また、同業者の方からの買い取り依頼も数件あった。12月も売却、購入の間合せは安定して入っているが、購入までの期間は長めである。	間合せ数安定	不動産管理業
	柏商工会議所がリーダーシップをとり街の賑わいと豊かさを感じられるようになってほしい。新体制に期待している。	今後への期待	不動産賃貸業
	賃貸住宅業界は繁忙期入り。供給過多の間取りタイプは出だし苦戦模様。築浅駅近の高額賃貸物件より駅徒歩10分程度の手頃な物件の成約率が高い。消費者の財布の紐は昨年より固くなった印象。	手頃な物件の需要	不動産賃貸・管理業
	慢性人手不足で、種まきして熟した案件を掴むことができず、来年の景気動向はいかに。都心はしばらく好景気と言われるも、地方はすでに冷め始めている。	人手不足	ソフトウェア業
2019年は出生率が90万人を割り、労働人不足はAI時代の片鱗を窺わせる。外国人に頼る中小企業も、早く手を打たないと厳しい時代が到来するか。市内経営者に話を聞くと、利益の無い繁忙によるフル操業だと異口同音である。消費税が重荷となり、難しい年の再来か。	人手不足 先行き不透明	投資顧問	

◎労働環境・人手不足

「昨今は忘年会を社員に強要できなくなっている。建築業界においても最近の職人不足はかなり深刻。「最近の若い者は」と言うのではなく、働く環境を整えることが大切になってきている」(一般土木建築工事業)、「明確な目的と目標、人材の確保と育成が必須」(金属素形材製品製造業)、「年内で雇用確保できたが、適正人数ではない」(特殊産業用機械)、「今まで、外国人雇用や実習生の問合せは就職斡旋企業からが多かったが、ハローワークからもくるように」(一般産業用機械・装置製造業)、「慢性人手不足で、種まきして熟した案件を掴めず」(ソフトウェア業)、「2019年は出生率が90万人を割り、労働人不足はAI時代の片鱗を窺わせる。外国人に頼る中小企業も、早く手を打たないと厳しい時代が到来か」(投資顧問)との声が寄せられた。

◎先行き不安

「オリンピックまでは変化なし。その後はどうか」(職別工事業)、「経済状況は冷え込みが厳しい。最近はどうしたら継続できるか考えてしまう」(印刷業)、「オリンピック後の落ち込みの話が気になる」(各種商品小売業)、「来年の景気動向はいかに。都心はしばらく好景気と言われるも、地方はすでに冷め始めている」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

2019年12月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 26.0	 ▲ 10.5	 ▲ 42.8	 ▲ 41.6	 ▲ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 29.4	 ▲ 12.8	 ▲ 35.8	 ▲ 40.4	 ▲ 23.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.6	 15.7	 ▲ 21.4	 ▲ 41.6	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 21.7	 ▲ 0.9	 ▲ 27.7	 ▲ 35.0	 ▲ 16.0

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 26.0	 ▲ 10.5	 ▲ 7.1	 ▲ 54.1	 ▲ 18.7
CCI-LOBO	 ▲ 23.3	 ▲ 9.2	 ▲ 27.7	 ▲ 31.7	 ▲ 19.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 32.8	 ▲ 26.3	 ▲ 28.5	 ▲ 33.3	 ▲ 43.7
CCI-LOBO	 ▲ 36.2	 ▲ 43.4	 ▲ 37.4	 ▲ 31.2	 ▲ 35.3

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 24.6	 42.1	 21.4	 12.5	 25.0
CCI-LOBO	 23.1	 38.5	 9.5	 21.8	 29.4

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 8.2	 ▲ 10.5	 7.1	 ▲ 16.6	 ▲ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 13.6	 ▲ 4.6	 ▲ 13.1	 ▲ 21.1	 ▲ 14.5

調査期間：2019年12月12日～18日

調査対象：全国の338商工会議所が2,635企業にヒアリング調査を実施

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(12月速報)

全国の業況

業況DIは悪化。先行きは不透明感拭えず、慎重な見方変わらず

12月の全産業合計の業況DIは、▲29.4と、前月から▲2.6ポイントの悪化。都市部の再開発を中心とする民間工事は底堅く推移する一方、消費税率引上げ後から受注の減少も見られる建設業や、米中貿易摩擦・中国経済減速の影響が長引き、

工作機械や産業用機械、自動車関連を中心に不振が続く製造業が全体を押し下げた。消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響が落ち着き始めたとの声も聞かれる一方、消費者の節約志向の強まりや、世界経済の先行き不透明感、深刻な人手不足や人件費の上昇が引き続き中小企業のマインドを下押ししており、業況改善の動きは依然として力強さを欠いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲27.8(今月比+1.6ポイント)と改善を見込む。年末年始の商戦を契機とする個人消費拡大

やインバウンドを含めた観光需要拡大への期待感がうかがえる。一方、消費税率引上げの影響や、人件費の上昇や受注機会の損失など人手不足の深刻化の影響、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦や世界経済の動向、日韓情勢の行方など不透明感が増す中、中小企業の業況感は慎重な姿勢が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、製造業、卸売業で悪化、サービス業は横ばい、小売業は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「県の公共工事予算が秋の台風による被災地域の復旧に振り分けられ、当地域での公共工事の発注量は減っているため、売上の確保が難しい。しかし、人手不足が深刻化する中、技術者確保のためには冬の賞与を

減らすわけにはいかず、昨年の並みの支給を考えている」(一般工事業)、「消費税率引上げによる消費低迷を受け、売上が伸びない。人手不足による人件費や外注費のコスト増も深刻で、今後の動向に懸念がある」(舗装工事業)

【製造業】「米中貿易摩擦の緩和の兆しが見られる一方、英国の欧州連合(EU)離脱が決定的になり、また、自動車等の輸出の減少や円高基調による原材料価格の高騰、人手不足の影響が続いており、厳しい状況。大手の生産調整も始まっており、先行きを懸念している」(自動車・附属品製造業)、「半導体製造装置関連の受注増は見受けられるが受注動向の波が激しく、また、米中貿易摩擦への懸念を払しょくできず、冬の賞与を抑えざるを得ない。来年度のベースアップに向けた利益を確保できるかどうか、先行き不透明な状況である」(計量器測定器等製造業)

【卸売業】「平年より気温の高い日が多く、防寒類を中心とした冬物衣料品の動きが鈍いほか、消費税率引上げによる影響が残っており、売上が悪化した。また、若手の人材を

育成したいが人手不足が深刻であり、人材の確保に難航している」(衣服・日用品卸売業)、「米中貿易摩擦の影響により業績が落ちている取引先が多く、その影響を受けて売上が伸び悩んでいる。先行き不透明感強く、今後も様子見の状態が続く見込み」(一般機械器具卸売業)

【小売業】「年末商戦前に、早期受注を目的としたイベントを仕掛けた結果、客足が伸び、売上は増加した。一方で仕入れ単価の値上がりなどもあり、消費税率引上げによる消費の停滞はしばらく続くのではないかと感じている」(贈答食品・生活雑貨小売業)、「消費税率引上げの影響は徐々に落ち着きを見せており、前回の消費税率引上げ時のような深刻な落ち込みや影響の長期化は無いと見込んでいる。食料品を中心としたフロアの改装を行ったことも好材料となっており、クリスマスや年末・初売り商戦を見据えて、さらなる売上増を図りたい」(百貨店)

【サービス業】「消費税率引上げ後、初の忘年会シーズンだ

が、昨年比べ、忘年会の予約件数が減少しており、歳末の活気が感じられない。他店でも忘年会の動きが鈍いと聞いており、消費の落ち込みを感じる」(飲食業)、「スキーシーズンを迎え、国内からの客は例年並みだが、インバウンドは昨年を上回る勢いで予約が伸びている。オーストラリアを中心に長期滞在型の客が増加しており、売上は好調に推移している」(宿泊業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲20.2	▲5.6	▲20.5	▲27.4	▲33.9	▲14.5
8月	▲21.0	▲9.5	▲23.1	▲25.2	▲31.1	▲15.9
9月	▲20.0	▲4.8	▲21.1	▲30.6	▲27.5	▲17.1
10月	▲24.1	▲7.9	▲25.3	▲26.9	▲38.6	▲20.4
11月	▲26.8	▲6.9	▲28.5	▲29.4	▲42.4	▲23.8
12月	▲29.4	▲12.8	▲35.8	▲31.4	▲40.4	▲23.9
見通し	▲27.8	▲18.3	▲31.1	▲27.3	▲37.1	▲23.1

柏の景気情報

(12月の調査結果のポイント)

調査期間：2019年12月23日～2020年1月10日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数73件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲23.9	▲10.5	▲20.0	▲45.4	▲13.3
8月	▲28.5	▲10.5	▲42.8	▲47.8	▲7.1
9月	▲18.3	▲10.5	▲40.0	▲21.7	± 0.0
10月	▲34.2	▲20.0	▲28.5	▲59.0	▲21.4
11月	▲25.3	▲10.5	▲38.4	▲42.3	± 0.0
12月	▲26.0	▲10.5	▲42.8	▲41.6	▲6.2
見通し	▲12.3	▲21.0	± 0.0	▲25.0	△6.2

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

全産業D Iはわずかながら悪化。先行きは改善を見込むが慎重な見方が続く

12月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは、▲26.0(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が0.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲41.6(同▲42.3)である。変らない業種は、建設業▲10.5(同▲10.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同▲10.0)、製

造業▲42.8(同▲38.4)である。

【建設業】からは、「諸物価の値上がりで採算、利益減少。消費増税の影響も多大だ」(電気工事業)、「毎年年末は新しい畳で新年を迎えたいお客様からの受注がある。ありがたいう年の瀬だ」(畳工事請負・畳製造販売業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「米・中、EU、自然災害等リスクの増大による不透明感が投資抑制に繋がり低迷。短中期見通しが重要」(金属素材材製品製造業)、「設備老朽化により投資意欲はあるが、市場動向の判断が難しく、新設、改修するか迷う」(特殊産業用機械)、「消費増税の影響はほぼ無いが、台風や大雨で需要のズレが。今後の売上挽回に期待するも、インバウンドの減少や少子高齢化、人口減少が少しずつ売上に影響」(自動車付属品製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「暖冬で高額商品のコート売上が半減。また、大型ショッピングモール(テラスモール)ができて買い回りの来店客が減り二重苦」(婦人・子供服小売業)、「消費増税により景気が悪

い」(食料・飲料卸売業)、「消費増税の反動は11月以降、徐々に縮小。前回の増税時程の深刻な落ち込み、長期化はないと想定。衣料品等が前年実績を下回る中、食料品は店頭を改装した効果あり前年超え」(百貨店)、「年賀状印刷数は今期も減少。特に高齢者がやめている」(書籍・文房具小売業)、「衣料品を中心に不調。フードストリート開設により

昨年よりは好調だった為、反動によるマイナスかも」(各種商品小売業)、「歳末催事の期間は良いが、前後は落ちた」(各種商品小売業)、「23日、クリスマスが平日となり動向が悪かった。お歳暮は好調」(大型小売店)、「クリスマスデコレーションケーキの売上が減り、小物、その他ケーキの売上は増加。単価が低い分全体の売上減」(洋菓子店)、「クリスマスは客単価が減少するも客数が増加し、売上は伸びた」(洋菓子店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「ここ10年間で最高の売上を記録。冷夏、長雨、大風、消費増税の反動がいつぱんにきたのだろうか」(酒場・ビヤホール)、「忘年会は大人数の予約が減り、少人数で増加」(日本料理)、「ここ1年ほど平日夜の来店客数が減少」(食堂・レ

ストラン)、「貨物自動車運送事業法改正の効果に期待」(一般貨物自動車運送業)、「年内に売却希望のお客様が来店。また、同業者からの買い取り依頼も。売却、購入の問合せは安定してあるが、購入までの期間は長め」(不動産管理業)、「築浅駅近の高額賃貸物件より駅徒歩10分程度の手頃な物件の成約率が高い。消費者の財布の紐は昨年より固い印象」(不動産賃貸・管理業)、「会議所がリーダーシップをとり街の賑わいと豊かさを感じられるようになれば」(不動産賃貸業)、「市内経営者によれば、利益の無い繁忙によるフル操業だと異口同音。消費増税が重荷で、難しい年の再来か」(投資顧問)などのコメントが寄せられた。

12月の景気キーワード

◎労働環境・人手不足

「昨今は忘年会を社員に強要できなくなってきた。建築業界においても最近の職人不足はかなり深刻。『最近の若い者は』と言うのではなく、働く環境を整えることが大切になってきている」(一般土木建築工事業)、「明確な目的と目標、人材の確保と育成が必須」(金属素材材製品製造業)、「年内で雇用確保できたが、適正人数ではない」(特殊産業用機械)、「今ま

で、外国人雇用や実習生の問合せは就職斡旋企業からが多かつたが、ハローワークからもくるように」(一般産業用機械・装置製造業)、「慢性人手不足で、種まきして熟した案件を掴めず」(ソフトウェア業)、「2019年は出生率が90万人を割り、労働人不足はAI時代の片鱗を窺わせる。外国人に頼る中小企業も、早く手を打たないと厳しい時代が到来か」(投資顧問)との声

◎先行き不安

「オリンピックまでには変化なし。その後はどうか」(職別工事業)、「経済状況は冷え込みが厳しい。最近はどうしたら継続できるか考えてしま」(印刷業)、「オリンピック後の落ち込みの話が気になる」(各種商品小売業)、「来年の景気動向はいかに。都心はしばらく好景気と言われるも、地方はすでに冷め始めている」(ソフトウェア業)との声

が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(COIT-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲26.0に対し、「CCI-LOBO」が▲29.4で柏の方がマ

イナス幅が3.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業である。